



© 2015「おかあさんの木」製作委員会

教科書で愛される児童文学が、感涙の映画化。

原作は児童文学者、大川悦生著「おかあさんの木」(ポプラ社刊行)。幾度も小学校中学校から高学年の国語教科書に採用されてきたお話。

戦争で引き離された母と息子たちの普遍的な愛を描いたヒューマンドラマ。長野県の小さな村で暮らす女性ミツは、以前から想いを寄せていた謙次郎と結婚して7人の息子に恵まれ、貧しいながらも幸せな日々を送っていた。そんなある日、謙次郎が突然の心臓発作で他界。さらに数年後、たくましく成長した息子たちを次々と兵隊にとられてしまう。ミツは息子を戦地へ送り出すたびに桐の木を1本ずつ庭に植え、彼らの帰還を待ち続ける。

この講座は、「よっかいち人権大学あすてっぷ 2024」第4回講座(公開講座)です。

四日市市では、一人ひとりが自分らしく生きることができまちなちを目指して、「よっかいち人権大学あすてっぷ」を開講しています。あすてっぷでは、さまざまな人権についての講座を受講していただけます。

日常生活の中で人権尊重の意識や行動がすみずみまで根付くことをめざし、一人ひとりが人権について広く学び理解を深める機会として、ご参加いただきたいと思います。

